

## 第4回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第4回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和2年9月14日（月）午前10時00分～12時09分
3. 場所：北杜市役所 3階大会議室
4. 出席者：  
（委員）清水一彦・川村めぐみ・日永龍彦・清水永一・坂本利訓・丸茂 浩・小石 博・三井正三・輿石長時・坂本美樹・輿石義彦・清水 潤・細川英雄・高木ひとみ  
  
（事務局）中山教育部長・堀内教育総務課長・田中指導監・天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・白倉学校教育担当リーダー・総務担当柳澤
5. 議事  
（1）適正規模等の検討の方向性に関する意見交換  
（2）第1回ワークショップで説明する資料に関する意見交換
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：3人
8. 議事録署名委員：三井委員、輿石委員

### 議 題

- （1）適正規模等の検討の方向性に関する意見交換  
（会 長） それでは事務局に説明を求める。  
  
（事務局） （事務局より資料を用いて説明）  
  
（会 長） ただ今、事務局より資料の説明があったが、資料検討のワーキングに参加した委員から何か追加事項はあるか。  
  
（委 員） 資料検討のワーキングに参加した委員グループから、追加で説明したいことがあり、追加資料を用意している。  
追加資料の説明の前に事務局への質問がある。審議会へ出席している委員はワークショップにどのような立ち位置で参加することが期待されているのか。つまり、ワークショップの一員として自由に意見をいう立場で参加するのか、審議会としては

どう考えているのかという質問に答える立場で参加するのか。次に、資料にある財政状況の説明の詳細として、例えば人件費は須玉中と長坂中が大きいですが、教員の人数が多いわけではないので、からくりが良く分からない。また、バス費用や施設費用なども大きいですが、どの費目に対して、検討していくのか。事務局の考えを教えてください。

- (事務局) ワークショップは審議会で議論するための調査審議の場として位置付け、保育園・小学校・中学校の保護者、地域の代表者、公募により参加者を構成する予定である。PTAの代表や区長の立場で審議会に参加されている委員は、ワークショップにもご参加いただくようになるが、地域の代表として意見を言っていたく立場での参加を考えている。
- 教員の人件費は、国・県の配置基準に基づき県が費用負担している。この資料における人件費は、市が独自に配置している教職員の人件費である。8ページにある市費での配置人数によって中学校間の差ができています。
- バスの運行費は、対応する生徒数や通学距離によって変化する。第1回ワークショップや審議会において、そうしたシミュレーションが必要という意見を頂ければ、今後、具体的な資料を用意していきたい。

- (委員) 追加資料の説明をする。審議会資料13ページ記載の「課題」は、すでに解決例があるものや、水平統合により解決しないものがあるため、意見交換の前に共有すべきと考えた。

「①教科担任が1人となってしまう」について  
水平統合により学級数が増えれば一時的に5教科の複数教科担任は維持できるが、少子化がさらに進み学級数が減れば維持できなくなる。教員の配置は各地区の中学校のままで、ICTを使って他地区との合同授業や遠隔授業を行うチェーンスクール方式で、連携していくような解決策も考えられるのではないかと。

「②部活動でチームが編成できない」について  
4校、2校に統合しても、10年先は校内での多様な部活動

の維持は出来なくなる。1校にしても、生徒 655 名に対して教員配置は 50 名となり、過剰負担となる。部活動を学校で維持すること自体が難しくなっていくので、社会体育として実施するような転換を早く考えた方が良い。

「③ 1 クラスあたりの生徒数が多い」について

2校、1校案では、クラスの人数が多い状態が続くので、解決しない。

「④ 多様な人との人間関係がはぐくまれにくい」について

全国的に見ると、小規模校の方が異年齢との人間関係を育てる取組を実践している。幼保小中一貫教育やコミュニティスクールなどでコミュニケーション能力が向上したという事例が県内にもある。

「⑤ 兼務・非常勤の教員に頼らざるを得ない」について

県内の大規模中学校でも、兼務・非常勤に頼っている状況であるため、規模が変わっても解決はされない。

「⑥ 校務分掌の負担が大きい」

行政と連携した業務改善や、事務の共同実施などで校務を削減することを考えざるを得ない。

「⑦ その他」

規模が小さいままだと PTA 役員になり手がいないことは、コミュニティスクールなどで地域の方に入っていただくことを考える中で PTA の在り方を見直しているところも出てきている。

次に、最近の学校の状況について、今年から実施される国の学習指導要領について共有したい。

「1. 校種間連携」について

就学以前の保幼から小中までの一貫教育が推進されている。子どもの成長段階の違いなどを反映して、6年・3年の区切りを見直す義務教育学校の動きも出てきている。また、小学校高

学年の教科の高度化に対応して学級担任制から教科担任制を入れるという議論も進んでいる。英語などは小学校の児童に、中学校の先生が出前授業を行うなどの取組が、子どもたちにとってプラスになっているという報告がある。

## 「2. 地域－学校間の連携」について

学習指導要領では、社会に開かれた教育課程、つまり、社会の具体的な事象を捉えながら学びを深めるような教育が目指されている。泉小学校で導入されているが、「コミュニティスクール」を進める動きもある。教員の業務改善、働き方改革なども、地域と一緒に進めていくべきといわれている。教育課程の中でも地域を学ぶ郷土学習が大切だといわれているが、子ども達が具体的にイメージを持って学べる郷土、地域の地理的範囲はどの位なのかを考えなくてはならない。コミュニティスクールは、学校に地域の人が手伝えといっているだけではなく、学校を核にしながら地域を作り直していこうと、まちづくりと学校づくりを一体的に進めようということが目指すところになっている。学校の規模が大きくなれば、支援者も増えるという記述があるが、自分たちの学校という意識がなければ、逆に協力いただけないこともある。関係を持ち得る地域の範囲はどの位かを考えなければいけない。部活動については、学校の中で解決できる問題ではないと教育課程の中にも書かれている。このような最近の傾向が、水平統合で解決するのかどうか情報提供をしていかないと、地域説明会と同様、ワークショップでは生産的な意見が出にくい状況になってしまうため、補足的な資料を準備させていただいた。

(会 長) コロナ禍や少子化を契機に、新たな連携や教育の在り方を見直していく。そこに北杜市の教育の意味を見出していくことが大事になってくる。市の財政が将来苦しくなる中で、北杜市は一人当たりの教育費は他市に比べて高く投資しているが、全国学力テストの結果に費用対効果が出ているのか。

(事務局) 今年度はコロナ禍で実施されていないが、昨年度までの結果をみると、ここ数年、北杜市は小中ともに全国平均を上回っている。

- (委員) 13ページの課題、14ページにある考え得る選択肢とその背景が、委員の追加資料の説明と齟齬があるように感じるが、事務局はどう考えているか。
- (事務局) 13ページは、昨年度、市内中学校の先生方に伺った意見のまとめであり、解釈は加えていない。14ページは、考え得る選択肢について、期待される効果や先行事例を挙げたものである。メリット・デメリットは、見方によって変化する。事務局としては、特定の選択肢を推すことは意図していない。
- (委員) 地域のワークショップに出る資料はこのままではなく、議論の結果を踏まえて修正されるということによいか。
- (事務局) 議論の結果を踏まえて修正する予定である。
- (委員) 14ページのタイトルは「課題と可能性」とした方がよいのではないか。一方の可能性は他方の課題であったりする。補足情報として、徳島県阿南市のチェンスクールの事例を見てきたことがあるが、徳島県は日本で一番人口減少率が高い県で、水平統合しても限界が来てしまう。また、水平統合では、通学の限界地域が発生してくる。それらへの対応として、学校を地域に残したまま学習の拠点として繋いでいく方法としてチェンスクールを開始していた。物理的には離島で、現在はネットワークで全部繋がっている。財政面で予算のどこを抑えるのかについて、徳島県でチェンスクールと一緒に進めているパッケージスクールというものがある。学校と他の公共施設をまとめて1つの施設にすることで、改修に伴う経費を削減している。その1つが牟岐町にある施設で、まちの中心に学校、こども園、町の施設を入れる方法だった。資料の教育費には、図書館や文化財の維持の費用も含まれているという説明だったので、パッケージスクールのような考え方もあっていいと思う。スクールバスは、地域コミュニティバスと併用することで、子ども達の社会性を育成する一環にもなり、他の予算との共有などで市の全体の支出を圧縮する方向で学校の費用を考えたい。

品川区では小中一貫学校のプールが社会教育施設の体育館と一体化しているなどの事例がある。バラバラにやっていると色々な所で支出が増えていくようになる。

追加資料が水平統合では解決されないと指摘した課題を、色々な試みの中で解決している事例が全国にある事を参考にした方が良い。

(委員) 見方を変えれば、14ページの課題になっていることが、逆に良い点になってくることが見出せるのではないかな。

(委員) 課題をどう解決していくのが会議の意義であると思う。大きい課題から順番に解決していくような検討ができれば良いと考える。

(委員) 小中一貫校をまとめて1つ作れば、これまでの課題は解決するのか。

(事務局) 選択肢の1つとして小中一貫校を挙げているが、課題が解決するかどうかは、ワークショップや審議会の中で議論していただく中で、方向性を出していただきたいと考えている。また、選択肢をワークショップなどで広く示しながら、保護者や地域の方の意見を多く取り入れていく中で、方向性が導き出されると考えている。

(会長) 小中一貫校だからといって課題が全部解決するわけではなく、水平統合したら課題が解決するものでもないということである。

(委員) 小中一貫型の学校をまとめて1つというのは、北杜市の中学校を1つにまとめるということか。

(委員) 北杜市全体を統合して1校にすれば、財政的には負担が軽減される。通う子どもたちの負担は大きくなるが、市内の市民バス、スクールバスを併用すれば、子どもたちが集まり様々な選択肢を提供できるようになると考えている。

(委員) ワーキンググループに参加した委員は、北杜市は学校間のネッ

トワークが整備されているので、小中一貫校にすれば、通信機器を併用することでかなりの課題は解決するだろうと考えている。北杜市全体を1校にまとめると、15ページの中学校教員配置にあるように、現状では市全体で1,003人の生徒に対し98人の教員が配置されているが、1校に統合すると教員は68人になる。令和14年では、665人の生徒に対し85人の先生であり、1校になると生徒数は同じでも教諭が50人になってしまう。これは、教育環境としては悪化すると考えられる。1校にすると、1学級当たりの生徒数が多くなってしまう点が一番の問題だと思われる。固定化された人間関係は問題といわれるが、小規模になれば折り合っていかなければならないということもあり、先生もトラブルを発見しやすいということもある。多様な人間関係は同世代の生徒が多くなれば出来るというものでもない。1校にまとめれば、すべて解決するのではないので、色んな選択肢と色んなデータを比較して、最終的に子ども達にどれが最適かを考えていくことになる。

(委員) 枠組みにこだわった話が多いが、気になるのは北杜市の財政状況である。親として子ども達に良い教育環境を作るにはお金が絡んでくる。今まで10年来、枠組みについて審議会で検討されてきたが、もう審議会として枠組みを決めて、市の財政面も加味しながら考えて、話を進めてほしい。

(委員) 垂直統合を今後詰めていった方がいいと思う。ネットワークの問題も出てくるが、まずは一貫型か分離型かを議論したらどうか。

(委員) 前回に保育園の保護者にも意見を聞く提案をしたが、孫が行っている保育園の保護者に聞いてみた。部活の事を考えると統合するのに賛成の様だった。資料を見ると、生徒数は減っていく、市の財政は悪化する、校舎の耐用年数が来ているので改築しなければならないとすると、水平統合するようになっていくと感じた。しかし、追加資料を見るとそれでは解決しない課題があり、水平統合でない方が良いでしょうにも感じる。コミュニティスクールについては、中学校にコミュニティスクールの準備会があり、学校だけでは解決できない問題を地域で

学校を支えて解決しようと参加している。地域と学校の連携は大切だと感じており、水平統合は考え直した方がいいと感じている。

(会 長) 各自治体が工夫して取り組んでいる新しいタイプの学校に対して、国も制度を変えて対応してきている。山梨県には公立の中高一貫校がないなど、全国に対して遅れているようにも感じる。そのような中で、北杜市が音頭を取って新しい学校づくりを志向しても良いと思う。

(委 員) 財政的には厳しいと思うが、各町に色々な施設がそれぞれ1つあったほうが、色々な交流もできる。地域のつながりのために、町ごとにコミュニティの拠点となる施設があると助かると思う。

(委 員) 16ページの教育水準の維持・向上と持続可能な学校運営を考えて選択していく必要があると考えている。ICTのネットワークを作っていく事、コミュニティスクールの発想で地域と結びついていかないと学校は大変だということ、保育園を含めた小中連携を考えなければならないことなどが課題である。パッケージスクールというのは面白いと思う。選択する上で、各選択肢の10年後・20年後に学校予算や維持管理に必要な費用はどのようなのか知りたい。

(委 員) 現場としては、13ページの現状の特色と課題は、その通りと感じた。特色は、水平統合になっても基本的には維持できると思うが、地域とのつながりは薄くなっていかざるを得ない。地域の協力が無ければできない行事等があったりするので、どうなるのかなと思う。課題については、水平統合することによって解決するかは未確定な所が多い。教員が増える、教科担任が複数配置される、人間関係が複雑になって強くなっていく等は、あると思う。部活動については、今の現状では非常に難しいと感じており、地域社会全体で考えていく必要があると思う。文科省から、部活動について地域と連携して子どもたちのニーズに合わせた運営をしていくべきだという方針が出され、2～3年のうちにモデル校で実践し、令和5～6年には全国で



地域での部活動の展開を行うことになっている。他の市とも連携して動くような検討も必要である。

(委 員) 資料では選択肢が3つあるが、ワークショップでは、この中のどれかにしたいかを導出することを目指すのか。

(事務局) 事務局としては、3回に分けてワークショップを行い、1回目では色々なご意見をいただき、それを踏まえて審議会で検討して2回目以降の進め方に反映させていくことを想定している。3回で意見の集約が出来るかは分からないが、結果を審議会に報告しながら、審議会で議論を進めていただきたい。

(委 員) この資料を見る限り、統合ありきで進めるように見えるが、統合することで解消する問題ではないということであるし、1校に統合しても市費での人件費が0.5人分の削減になるだけだと、統合することでの費用削減は本当にできるのか疑問に感じる。ワークショップで提示する資料に関しては、14ページの表の中をもっとボリュームアップして、メリットやデメリット、可能性や課題が分かるようにしてほしい。

(会 長) ワークショップの募集は既にかけて、約20名の応募があったようだ。ワークショップで結論が出るわけではないし、審議会自体でも1つにまとめて集約するとは考えていない。本日の議論を参考にして、ワーキンググループを開催し、ワークショップの資料を準備していただくということによろしいか。

(事務局) よろしければ、そのように進めたい。

(委 員) 前回の議事録であるが、既に署名委員により署名されて、ホームページにも公開されており、修正意見を受け入れられないと言われたが、ワーキンググループの趣旨が書かれないまま公開されてしまったことは遺憾である。これまで、ワーキンググループに参加した3人は引き続き協力するが、今回の議事録には、審議会の場でワーキンググループの開催が確認された事を明記したい。また、可能なら議事録は公表前に確認したい。財政面での問題は認識していて、統合による市費の削減が課題

で、中でも影響が大きいのは施設費だと思われる。例えば、1つに統合すると、校舎の新築が必要となるし、改修で最低限の費用で対応するにはというシミュレーションもワーキンググループの参加者で独自に行っている。このような内容も審議会の皆さんに共有して議論を進めたい。

(事務局) ワーキンググループについては議事録に残し、議事録は委員の皆さんに確認し、必要な修正を行い、議事録署名委員に署名頂いた上で公表する。財政面については、今回の資料で大きな点は共有できたが、細かい具体的なシミュレーションも追加して資料を作成したいと考えている。

(会 長) ワークショップには今日の意見を反映した修正をワーキンググループにお願いしたい。他の委員で参加したい方がいれば、事務局に伝えてもらいたい。

(事務局) ワーキンググループには、現在3名の方に参加いただいているが、他にも参加いただける委員がいたら伺いたい。

(会 長) 他に協力いただける委員がいたら、ワーキンググループに参加いただきたい。以上で議事を終了する。

(事務局) 次回審議会は11月下旬に予定している。  
その前の、10月末ごろにワークショップを開催していくことを予定している。

閉会

終了